

ヤマメ



鳥取県指定準絶滅危惧種

上中谷にて

(撮影：桐原佳介)

私はかつて、仕事で新潟県の信濃川水系の野生動物調査に携わったことがあります。何十本もの支流を歩き、テント生活をしながらの調査でした。そんな時、地元のおじさんたちが川辺で魚を焼いているところにお邪魔しました。

見ず知らずの私たち調査員に、惜しげもなく「まあ、食べていきんさい。」と炭火でいい色に焼けたヤマメの串焼きを手渡してくれました。たつぷりとした身に、塩加減が素晴らしく、調査の疲れも吹き飛ばす美味しさです。ヤマメは、私にとって中越の山の幸を堪能した思い出の味となりました。

ヤマメは、「溪流の女王」の肩書きを持つ美しい魚です。そんなヤマメの赤ちゃんを、この夏に上中谷の沢で初めて見つけました。稚魚の存在は、その環境でヤマメが繁殖していることを示しています。

しかし、全国各地でよそから連れて来たヤマメやアマゴの放流が行われていたこともあり、昔からその沢にいたヤマメの個体群が、交雑によって失われつつあるそうです。

町内での過去の放流記録が気に

なるそうです。

ヤマメはサクラマスとも呼ばれています。そして、主に西日本に分布しているアマゴは、サツキマスという名も持っています。サクラマスとサツキマスは降海型といい、溪流で生まれたものが海や大きな湖に出た40〜50cmに成長したものです。ヤマメやアマゴは一生を溪流で過ごし、陸封型と呼ばれます。私は、この名前の関係がなかなか覚えられず、いつも混乱していました。そこで「ヤマメIIサクラマス」は山桜と覚え、「アマゴIIサツキマス」はアマゴのゴの字を五月の「こ」にかけて、「五月(こ)がっ・さつき」と覚えることにしました。

ヤマメは、川に落ちた虫や、カワゲラ・トビゲラなどの飛翔昆虫を食べます。ヤマメが生きていくには、餌となる虫がたくさんいる良質な森林と水辺環境が必要です。ヤマメの発見は、町のお宝をまた一つ見つけたような気分でした。次はどんなお宝と出会えるか楽しみます。

自然観察指導員 桐原真希